

2015年4月1日から2026年3月31日までに当院小児科で若年性皮膚筋炎、菊池病と診断され、ハイドロキシクロロキンを用いた治療を受けられた患者さんへ

小児炎症性疾患に対するハイドロキシクロロキンの有効性と安全性に関する後方視的検討について

東京科学大学附属病院小児科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、文部科学省、厚生労働省および経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和 3 年 3 月 23 日）の規定により、対象となる患者さんお一人お一人から直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開し、研究の実施について、患者さんご本人そして患者さんが未成年の場合には代諾者（親権者および未成年後見人）の方に拒否できる機会を保障することが必要とされております。この研究ではこれまでに行われた検査や治療内容のデータを使いますので、患者さんの負担はありませんし、今後の治療方針にも影響しません。また費用の負担もありません。またこの研究は、東京科学大学医学部倫理審査委員会の承認及び機関の長の実施許可を得て実施されます。

2015 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までに当院小児科で若年性皮膚筋炎、菊池病と診断され、治療を受けられた患者さんで、この研究に参加したくない方がいらっしゃいましたら、そのことをお申し出ください。その場合、あなたのデータは使いませんし、またこれからの治療に差し支えることは全くありません。また、ご自分がこの研究の対象になっているかお知りになりたい方についても、お調べしお答えいたします。

1. 今回の研究について

研究課題名：小児炎症性疾患に対するハイドロキシクロロキンの有効性と安全性に関する後方視的検討

若年性皮膚筋炎に対しては、ステロイド薬が第一選択薬として幅広く用いられますが、一部の患者さんでは効果不十分であり、また、副作用のため内服治療が続けられないこともあります。そのような場合には、免疫抑制薬の追加や変更が必要になります。しかしながら一部の患者さんではこれらの免疫抑制薬も効果不十分であったり、あるいは治療中に効果が減弱し再燃してしまうこともあります。皮膚症状のみ遷延し、外用治療でも改善が不十分なこともあります。また菊池病でもステロイド薬は用いられますが、一部の患者さんでは減量や中止により再燃を認めることがあります。そのような場合にハイドロキシクロロキンの追加が行われ治療されますが、まだ若年性皮膚筋炎、菊池病の小児患者さんに対しては、その有効性と安全性を調べた報告はほとんどありません。そこで本研究では、その効果や有害事象を調査し、有効性を検討したいと考えています。

2. 研究の方法について

対象は、東京科学大学病院小児科を受診し、若年性皮膚筋炎、菊池病と診断され、効果不十分、または有害事象等によりハイドロキシクロロキンの追加/変更を行った患者さんです。診断名、年齢、性別、罹病期間、変更前後の治療内容、変更時および最終観察時の臨床症状（関節、皮膚、眼科的異常、消化器症状）と重症度、患者および主治医の visual analog scale、血液検査におけるCRP 値、肝機能、腎機能、血算、赤沈値、CPK、アルドラーゼ値、フェリチン値、これらから算出される活動性指数のデータを使用します。

患者さんのお名前などの個人情報削除します。集めたデータは学会や論文などに発表される事があ

りますが、個人情報公表されることはありません。

この研究の期間は、研究実施許可日から2026年3月31日までです（対象は、2015 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までに東京科学大学病院小児科を受診した方になります）。

3. 予想される利益と不利益について

この研究はデータの調査だけを行う研究であり、この研究に参加しても患者さんに直接の利益はありません。データの取り扱いについては外部に漏れることが無いよう細心の注意を払います。

4. プライバシーの保護について

この研究では個人情報の含まれないデータのみを用いるため個人が特定されることはありません。

またこの研究で得られた結果は学会や医学雑誌等に発表されることがありますが、あなたの個人情報などが公表されることは一切ありません。

診療に関する情報は、研究責任者の清水正樹を管理者としてネットワークから切り離されたコンピューターを使用して、外部記憶媒体（USB メモリー）に記録し、鍵をかけて厳重に保管されます。

5. 研究参加に伴う費用の負担や通院について

この研究に参加することによる費用の負担や研究のためだけの新たな通院はありません。また、この研究への参加による謝礼はありません。

6. 研究への不参加の自由について

この研究への参加・不参加が、あなたの今後の治療に差し支えることは一切ありません。診療録をもとに、データのみを個人が同定されない形で集計されます。

不参加を希望される場合には、お手数ですが下記の研究責任者、研究分担者もしくは担当医にお知らせください。データ収集の際にお申し出のあった方のデータは用いないよう対応致します。研究への不参加を希望される場合は下記研究の窓口までお知らせください。

7. 研究に関する情報公開について

ご希望に応じて本研究によって得られた研究結果についてはご説明いたします。また研究成果は、関連学会での発表や医学学術誌への投稿により公表する予定です。

8. 研究資金および利益相反について

本研究は研究責任者が所属する小児科の運営費を用いて行われています。研究を実施するにあたり特定企業との利害関係はありません。本研究の実施にあたっては、本学利益相反マネジメント委員会に対して研究者の利益相反状況に関する申告を行い、同委員会による確認を受けています。

※利益相反とは、研究者が企業など、自分の所属する機関以外から研究資金等を提供してもらうことによって、研究結果が特定の企業にとって都合のよいものになっているのではないか・研究結果の公表が公正に行われないのではないかなどの疑問が第三者から見て生じかねない状態のことを指します

10. 研究に関する窓口

東京科学大学附属病院

承認番号：M2023-053

2023年5月9日 第1版

この研究の内容について、わからない言葉や疑問、質問、自分がこの対象の対象になるかなど、更に
詳細な情報をお知りになりたいときには、遠慮せずにいつでもお尋ねください。

研究機関の名称：東京科学大学 茨城県小児・周産期地域医療学講座

研究責任者：清水 正樹（東京科学大学 茨城県小児・周産期地域医療学講座 教授）

問合せ窓口：清水 正樹（東京科学大学 茨城県小児・周産期地域医療学講座 教授）

電話：03-5803-5244（対応可能時間帯：平日9:00-17:00）

苦情窓口：東京科学大学 研究推進部 研究基盤推進課 生命倫理グループ

03-5803-4547（対応可能時間帯 平日9:00-17:00）